みんなの童話

ながれ星

西の空がオレンジ色にそまって、ひがしずんでいきました。

いいもりやまの広場は、星がよく見えました。リスは、広場のすみでずっと空を見つめています。たぬきとにわとりとぞうは、とてもしんぱいです。

「ねぇ、リス君どうしたのかな」

たぬきがちいさな声で言いました。

「今日は、一日中ブツブツ言ってたぞ。おれ聞いてくるわ」

にわとりは、リスに近づいて聞きました。

「リス君、どうしたんだよ」

リスは、ためいきをつきました。

「う～ん、ながれ星をまっているんだよ」

「ながれ星？」

ぞうは耳をパタパタさせました。

「ながれ星に三回ねがいごとが言えないとかなわないんだって」

「それでブツブツ言ってたのか」

にわとりは、羽をバタバタさせました。

「リス君、ねがいごとって何なの」

たぬきは、リスのかおをのぞきこみました。

「ひみつだよ。教えるとねがいごとがかなわなくなるんだよな」

リスはすまなさそうに言いました。

一時間たちました。空は、星でいっぱいになりました。ほうせきばこをひっくりかえしたみたいにきれいでした。

二時間たちました。ながれ星は、あらわれそうにありません。

「リス君、今日はかえろうよ」

たぬきとにわとりとぞうは、なごりおしそうにふりかえるリスを、つれてかえりました。

次の日、昨日と同じ場所で、リスは昨日より元気がありませんでした。

「リス君のお母さんがびょうきなんだって」

たぬきは、お母さんから聞いたことを話しました。

「リス君は、お母さんが元気になるようにねがってるんだよ」

ぞうははなをふりました。

「ぼくたちでながれ星を作ろうよ」

たぬきとにわとりとぞうは、一生けんめい考えました。

星が見えてきました。

「ぼくははらづつみをするよ。ポンポコ、ポンポコ、ポンポコ」

たぬきは、はらづつみを打ちつづけました。

「コケコッコー、コケコッコー、コケコッコー」

にわとりは、声がかれるまでなきました。

ぞうは池から水をすいこんで来て、星めがけてとばしました。星がびっくりして、ながれ星にならないかとおもったのです。

星はなにごともなく、キラキラまたたいています。

「みんなありがとう。今日はもうかえろう」

リスはみんなをつれてかえりました。

次の次の日も星空でした。

ぞうは、竹やぶでささを取ってきて、たぬきとにわとりといっしょに、広場に行きました。リスは、やはり星を見つめています。

ぞうは、たぬきとにわとりにささをわたして、言いました。

「たぬき君、にわとり君、ぼくのはなに乗って」

たぬきとにわとりがはなに乗ると、ぞうは空に向ってはなをのばしました。

「早くささをふれ」

たぬきとにわとりは、一生けんめいささをふりました。

「おーい、ながれ星こーい」

すると、空がいっしゅん明るくなりました。そして、ひとすじ星がながれました。

「あー、ながれ星だ」

「リス君、早く言えよー」

たぬきとにわとりとぞうがさけびました。

「お母さんのびょうきをなおして、なおして、なおして」

リスは、声をはりあげました。

「リス君、やったね」

「やったー」

たぬきはこおどりし、にわとりはとびはね、ぞうははなをふりました。

リスのお母さんはげんきになり、リスにいつものえがおがもどりました。

しろやま会員　木村　久世